

## 2023年度第2回産業医部会幹事会議事録

日時：2023年5月12日（金）12：20～13：20

場所：第96回学会 第9会場

（ライトキューブ宇都宮 1階小会議室104）

（敬称略）

出席：宮本俊明、小田原努、森口次郎、原俊之、各務竹康、菅原保、大橋力、加藤憲忠、  
福本正勝、塚原照臣、西澤依小、石川浩二、遠田和彦、西賢一郎、  
岩根幹能、深井恭佑、塩田直樹、真鍋憲幸、斎藤恵、杉原由紀、池上和範、黒崎靖  
嘉

（オブザーバー）大神明専門医制度担当理事

欠席：羽賀将衛、深澤健二、谷山佳津子

会の開始に先立ち、大久保利晃名誉会員（労働衛生会館会長）から、OHAS（産業保健に関する実践的講習 Occupational Health Advanced Course Seminar）について、労働衛生会館が主催してきたが、開催場所の手配が困難となったこと、予算的な課題もあり、労働衛生会館が業務をたたむことを機に、主催の移管と運営方法を産業医部会で議論するよう依頼があった。既に学会の森理事長の了承を得たことも補足された。宮本部長から、専門医試験委員会との関係性も検討が必要であるが、現状の模擬試験の形態をそのまま学会が行うことは問題があるものの、今後産業医部会が専門医の育成支援も部会事業に含めて検討していくとの総論的な案が出され、了承された。

### 1. 審議事基準

#### ①前回幹事会議事録の確認（資料1）

石川幹事より議事録の確認があり、修正事項があれば1週間以内に連絡し、それを受けて確定とし、ホームページへ掲載することとなった。

#### ②産業衛生専門職の倫理綱領の見直し（資料2）

西澤幹事より、ワーキングチームでの進捗紹介があった。4/28に森口副部長が骨格を作成したものを展開したこと、大橋幹事から事前に、産業医以外の内容の盛り込み、差別については人権の尊重とすることなどの案が出されたことが報告された。森口副部長より、他学会の内容も参考にすることであること、一方で一部の会社の綱領も参考にできそうであることも紹介があり、今後、意見とともに各社の参考資料の提供も含めて6月中旬までに提出することとなった。

塩田幹事より、今回の背景の確認があり、森口副部長から現状の倫理綱領が長く、産

業医に限定されたものであり、時代の流れでシンプルな内容とすること、産業医以外の専門職も含めた内容とする方向であると回答があった。宮本部会長より産業医以外を含めた場合、中立・独立の立場と異なる部分も危惧される意見があり、これらを今後参考とすることとなった。

#### ③役割分担案について（資料 3）

宮本会長より、新幹事を含めた分担表の提示があり、全項目について担当の選任の趣旨の説明があった。医師会各担当などの齟齬の確認があり、修正案を提示することとなった。

#### ④化学物質の自律的管理についての進捗報告

宮本部会長より、濃度基準値を超えた際に実施が求められる健診での実施項目について、議論中であること報告があった。

また、濃度基準値の測定方法についても検討中であること、フィットテストの実施の運用なども検討中であること、健診要否や項目選定を産業医の判断でどう展開すべきかなど、今後議論していく方向性であると紹介があった。

#### ⑤次回幹事会の日程について

石川幹事より、第 3 回は 10/9（月） 9時から 12 時（編集委員会は 12 時から）、第 4 回は第 32 回全国協議会期間中の 10 月 27 日（金）午後 1 時間、現地開催（Web とのハイブリット開催）で開催予定と確認があった。

## 2. 報告事項

#### ①第 96 回学会（宇都宮）の準備報告

福本幹事より、学会は順調に進行していること、また 5/11 の産業医フォーラムも盛会に終わったと報告があった。

#### ②第 96 回学会部会長賞資料 4）

西澤幹事より、13 名の幹事が選考委員として、最終的に「地域在住就労女性における更年期障害の実態ならびに要因に関する検討」（慶應義塾大学病院 三宅温子先生）に決定したことが報告された。

#### ③部会名簿管理規約について（資料 5）

真鍋幹事より、前回幹事会での議論をもとに最終版を作成したと報告があり、これで確定とし、これを内規とすることとなった。石川幹事より、内規文書などの保管方法の確認があり、宮本部会長より学会 HP にある電子会議室を利用することが提案され、今後学会事務局へ確認して運用していくこととなった。

#### ④その他

大神明専門医制度担当理事より、プライマリケア連合学会から産業医部会とコラボ企画の打診があり、現状、今井鉄平先生を中心に事例検討会のような内容で次回学会企画として準備中であると報告があった。今後具体的な方向性が決まり次第、部会として議論していくこととなった。

冒頭で問題提起された **OHAS** の主催について、各務幹事より、模擬面接、プレゼン練習実施などが最も有用だったことが紹介され、今後もそれらに特化する意見が出された。杉原幹事より、専門医制度委員の経験から、**OHAS** を受講しての受験には疑問を感じたこと、塚原幹事から学会機関が模擬試験を運営するのは抵抗があることなどの意見が出され、今後部会として検討していくこととなった。

以上